

## 平成30年度 第2回 大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会

日 時 平成30年10月26日（金） 16:30～18:15

出席者 協議会委員 山崎 彰 西澤 信善 宮坂 政宏 中本 義隆 岩本 宏司  
尾崎 理人  
校 長 平野 裕一  
事務局 藤井 秀雄、高山 泰司、上林 卓也、朝倉 淳

### 次 第

1. 挨拶 平野 裕一 校長
2. 会長挨拶 山崎会長
3. 協議・報告

#### (1) 平成31年度 使用の教科用図書について（報告）

6月から各教科で教科書図書選定協議に入り、7月19日に選定した。

9月16日に採択許可が下りた。

##### (委員)

第一学年の家庭基礎、自立・共生・創造とあるが、道徳教育も含まれているか？

##### (校長)

家庭生活や家族役割についても家庭科で学習している。昔の衣服、調理というカテゴリーだけでなく、住環境のことも一生のライフステージのことも学んでいる。

##### (委員)

愛国教育もここで学んでいるのか？

##### (校長)

愛国心は必ずしもここだけで学んでいるのではなく、地歴公民を通じて学ぶことや、道徳は高校では教科とされていないが、総合的な学習の時間を活用した志（こころざし）学で自国を愛することや他国を尊重する態度を養うことを学んでいる。

##### (委員)

選定の際、観点自体はこのままでよいか議論されなかったか。例えば、関心意欲、思考力、判断力について教員は議論できたのか。

##### (校長)

単に知識を修得するだけの時代でないことは、研修などを通して教員間の共有は進んでいると思う。

##### (委員)

以前、この協議会で教科書選定理由の説明をされた時があったが、多数の教科書を短い時間で説明することは現実的に困難である。

##### (校長)

以前は教科主任を協議会に同席させていたが、選定後の会議での報告となるのでご理解いただきたい。

#### (2) 平成30年度 学校教育自己診断について（10月18日実施）

平成30年度学校教育に関するアンケートを教員用、保護者用、生徒用にそれぞれ実施し、第3回目学校運営協議会で報告する予定。

これを基にして改善点などを来年の学校経営計画にも反映させていく予定である。

**(委員)**

分析の仕方はどのように考えているのか。例えば、設問間をリンクさせた分析、経年変化、他校との比較などをすることにより、特に重点的に取り組むべきことがわかれば教えてほしい。

**(校長)**

設問項目は同じなので経年は可能と思われる。他校との比較は発表内容が限定されるが可能な部分はあると思う。

**(委員)**

せっかく調査するのであれば、それが次の改善につながるような分析を考えていただきたい。

### **(3) 平成30年度 学校経営計画の進捗状況について**

教頭より、結果及び実施された項目について説明。

**(委員)**

教員の勤務時間について文科省の統計調査で中学教員の60%強くらいが900時間であり、そこから働き方改革が始まった。何か対策をとっているか？

**(校長)**

月ごとに勤務時間を集計しているが、今のこの時間はスリットで管理されているので、実質はもっと多い。特に宅発宅着でのクラブ付添など実態を把握しきれないものがあると認識している。

府の指針としては把握できるスリットでの800時間をターゲットにして減らすようにとのことである。例えば、夏休みに一斉休業日を設定したり、今度の1月4日は金曜日でブリッジ休暇として連続で休んでもらうようにする。留守番電話機能対応により朝の電話対応やあるいは時間外で電話対応を翌日にしてもらうことを原則に実施することを予定している。具体策での改善と教諭の意識改革の両輪で改革を進めていく。

**(委員)**

教諭というのは大阪府の財産であり、800時間にとらわれずにメンタルヘルスや体調不良にならないようにしてもらいたい。

**(校長)**

本校のメンタルチェックの結果、平均的な学校に比べ仕事量は多いが、幸い協働性が高いので、メンタルのリスクが比較的に低いとなっており、そういった面では少し安心しているところである。

**(委員)**

国際舞台で活躍する人材育成について英語教育に力を入れているが、私の経験上、英語で一生苦労した記憶がある。日本人はリスニング能力が低いといわれ、また国際的にみて英語能力は勉強時間の割に低いといわれている。これからは自動翻訳機ができたりして、英語にかける時間をほかの勉強時間に使った方がよいという意見を持っている人もいる。コミュニケーションができるようになればよいのではないかとも思える。

**(校長)**

今後文科省の方針で小学校から英語が強化されていくことになっており、覚える単語の数も増えてくる。本校としては大学入試対策に対応せざるを得ないところがある。

本校の課題研究において英語でプレゼンしたり、中には論文を発表する生徒もいるが、英語を極めるということだけでなくツールの一つとしても使えることを経験させたい。また、発表する日本語をしっかり押さえていかなければならない。

**(委員)**

来年度に向けて生徒の内面の成長について学校経営計画に入れたらどうか。他の学校でいじめの問題が入っている。

**(委員)**

能勢分校との連携により何を育てようとしているのか？

**(教頭)**

課題研究の交流では発表への質疑応答が活発となり、同年代であることもあり時間がオーバーすることも多々ある。生徒同士お互い刺激し合って盛り上がっている。他の生徒からは次は参加したいという意見もあり、有意義な取組であると考えている。

**(校長)**

能勢分校は少人数教育という点が豊中高校にない部分である。4、5人同士で学習し合うことができメリットとして考えられる。

**(委員)**

中学校では教員が60名ほどいるが、月80時間超えは貴校教諭とほぼ同じか、多いくらいである。クラブ活動を含め同じ問題を抱えている。中学校も遅ればせながらスリットによる時間管理が行われつつあり、先ほどの話を中学校でも参考にさせてもらいたい。

**(4) 学校分析と課題について**

教頭より「スタディーサポート 学力と学習態度の推移」について説明。

**(委員)**

学習習慣が上位にかかわらず、入学時に成績上位の生徒が3年で下位に転じてしまうことであるとか、ずっと成績下位ということが心配である。このような生徒にどうやってケアしていくのか。

**(首席)**

生徒できちんとノートを取ったり質問しているにもかかわらず、なかなか成績に結びついていない生徒がいる。どうしてだろうと理科の教科内で話題にしたことがあった。読解力の部分があるのではないかという話になった。とにかく何でも片っ端から覚えようとする生徒は単語レベルでは差があまり出ないが、考察力を問う問題では途端に差が出る傾向にあった。

教頭より「平成30年度 大阪府立豊中高等学校 (SWOT分析)」について説明。

今後、結果について報告するので委員から意見をいただきたい。

**(5) 職員の採用その他の任用について**

校長より全体の方向性を説明。

来年のクラス規模を今後発表される。教諭の業務量は例えばクラス数が減れば比例して減るものではなく、本校としてはできるだけ会議に費やす時間を絞ること、また、それぞれ教諭が自主的に自分のペースで仕事ができる資質の者を集めたい。本校の平成30年度当初の人事異動及び年齢分布を説明。